

石巻専修大学

石巻専修大学「ホームページ」
http://www.senshu-u.ac.jp/shimonaki/

石巻専修大学
広報係

☎986-8580
宮城県石巻市
南境新水戸1番地
☎0225-22-7717(直)

2018年4月
創立30年を
迎えます

石巻川開き祭り 学生盛り上げる

孫兵衛船競漕／大縄引き／流燈／大漁踊り



掛け声に合わせて懸命に縄を引く学生・教員合同チーム (大縄引き)



持てる力を精いっぱい出し切った (孫兵衛船競漕)

石巻の夏を彩る「石巻川開き祭り」が7月31日と8月1日の2日間、盛大に行われた。本学は2年前から学生が参加しやすいように開催日を「地域貢献日」としており、今回も学生・教職員合わせて175人が参加。木造手漕ぎ船競漕や大縄引きで熱戦を繰り広げ、模擬店の運営にも汗を流した。

祭りは石巻の水運の基礎を築いた江戸時代の川村孫兵衛にちなむ。12人乗りの船で旧北上川の石巻大橋・内海橋間400mを競う「孫兵衛船競漕」には、学生と教職員の合同チームが出場。残念ながら予選突破はならなかったが、川岸からの声援に最後まで力を振り絞った。

河川改修の測量に使った縄を孫兵衛翁が神社に奉納したことに由来する。

「大縄引き」には、硬式野球部員や水野純理工学部教授も参加。若い力と見事なチームワークで決勝まで勝ち進み、手に汗握る好勝負で盛り上げた。惜しくも決勝で敗れ、準優勝。昨年にも出場した硬式野球部の上遠野

将太さん(経営3・宮城県一迫商業高)は「去年は3位だったので今年は優勝を狙っていた。悔しいです。メンバーは来年こそ初優勝をと反省点を話し合っていた。

祭りを楽しめるパレード「大漁踊り」では、約50人の学生らがそろいの浴衣で優雅に舞い、練習の成果を披露。毎年新調される浴衣を楽しみにする市民も多く、沿道から大きな拍手が送られた。祭り気分を盛り上げる模擬店でも学生が大活躍し、学生会がフランクフルト、かき氷を販売した。祭りは大小6000発の花火を染めた花火大会で閉幕。翌2日の早朝には学生と教職員約40人が花火くずを拾うボランティアに参加し、打ち上げ会場周辺を清掃した。



涼やかな浴衣姿で祭りを彩った (大漁踊り)

米メーコン大生らが来学

東日本大震災の復興状況を研究



昨年度から本学との交流事業が始まった米国ランドルフ・メーコン大学から、学生と教職員10人が来学し、7月12日から16日までの5日間、調査や研究に取り組んだ。来日したのは、東日本大震災からの復興状況を研究している学生4人(4年次生3人、3年次生1人)と指導教員など職員6人。図書館の「テ

ラー文庫」を訪れ、同大学の所在地であるバージニア州アシュランドの歴史が記された本や、バージニアの野生植物を紹介した本を寄贈した。同大学は東日本大震災で津波の犠牲になった元英語指導助手のテイラー・アンダーソンさんの母校。テイラーさんを追悼する基金の支援を受け、両大学が相互に研修生を派遣している。9月には本学から学生5人が研修に向かう予定。

研修生たちは歓迎会で和太鼓の演奏やもちつきを体験したあと、理工学部の吉原章学部長や坂田隆教授らと意見を交換。経営学部・岡野知子ゼミ

生との交流会ではすぐに打ち解け、盛り上がった。滞在中、東北電力女川原子力発電所や石巻地区広域行政事務組合消防本部を見学したほか、石巻市役所復興政策課ではさまざまな施策について説明を受け、真剣な表情でノートを取っていた。

本学の研修生に決まっていた遠藤巧さん(経営4・宮城県角田高)は「石巻のことをよく調べてきていることに驚きませう。僕も震災から5年たった石巻の実情をうまく伝えられるよう、準備を進めます」と気を引き締めていた。

製紙工場、造船所など見学

機械工学科3年次生25人

3日は石巻市内の2社を訪ね、年間約80万トンの紙を生産する日本製紙石巻工場、造船や船舶修理などを行うヤマニシの造船所を見学した。翌日は仙台市のキリンビール仙台工場と、東北電力仙台火力発電所を訪ね、同発電所では構内にある太陽光発電所や火力技術訓練センターも回った。

41人に修了証

開放講座

6月から7回にわたって開講されたみやぎ県民大学「石巻専修大学開放講座」が7月14日に終了した。5回以上受講した41人(うち26人が全講義を受講)に修了証を授けられた。今年度は「あなたの大切なものは何ですか?」をテーマに、杉田セン

ター長は「家族、健康、お金など大切なものやその意味は、その時の状況によって変わる。自分の大切なものについて考え、それに気づききっかけにしてほしい」とテーマの意図を説明した。「無趣味人間の私が頭

調査研究」(坂田隆研究代表)などの長期間にわたる調査・研究の報告や、「二市一町の小学校における学習支援の現状と目的及び組織的地域連携の在り方」(田中秀典研究代表)などの新プロジェクトの目的や活動内容が発表された。

共創研究センター 8件の成果報告

「共に創る」をキーワードに、地域自治体や企業と連携した研究活動に取り組んでいる石巻専修大学共創研究センター(中込真二センター長)の研究発表報告会が7月21日、本学で開かれた。2015年度に実施された8件の研究プロジェクトについて、代表者が概要説明と成果報告を行った。

IK地域研究 2教授が報告

公益財団法人石巻地域高等教育事業団から助成を受け、石巻圏域の文化・学術の振興に寄与する研究を行う「IK地域研究」の研究発表会が7月27日、石巻市役所の庁議室で開かれた。2015年度の助成事業に採択された2件の研究課題について、経営学部の石原慎士、山崎泰央の両教授が1年間の活動内容と研究成果を報告した。石巻地域に根差した研究で、出席者は興味深げに聴講していた。

みやぎ県民大学 石巻専修大学開講講座

杉田センター長(右)から修了証が手渡された